

橋りょうの耐震補強の推進

背景

阪神・淡路大震災(平成7年1月)では、多くの橋りょうで橋脚の損傷や橋桁の落下などが発生し、甚大な被害をもたらすとともに、復旧に莫大な費用と長い期間を要しました。

震災時、救助活動や支援物資の輸送などを行うのに、道路が重要な役割を担います。地震により橋りょうが損傷して通行不能となってしまうと、深刻な事態につながりかねません。

事業概要

埼玉県では、阪神・淡路大震災や熊本地震の被害を踏まえ、大規模地震に対して補強が必要な橋りょうについて、コンクリート巻立てなどによる橋脚の補強や、落橋防止装置の設置など耐震補強工事を進めています。

整備事例



橋脚補強



落橋防止装置



桁連結

災害対応訓練の実施

応急組立橋架設訓練

応急組立橋は、落橋などの大規模災害に対して迅速に道路網の復旧を図ることが出来ます。

現在4橋保有しており、災害に備えて架設訓練を行っています。



応急復旧
(昭和63年)



架設訓練

道路啓開訓練

放置車両による道路閉塞や道路陥没が発生した場合などに備えて、緊急車両が円滑に通行できるように道路啓開訓練を行っています。



車両移動訓練



段差解消訓練